

地域開発と公共投資

2014年3月21日

小峰隆夫

法政大学大学院政策創造研究科教授

1

人口減少下の地域

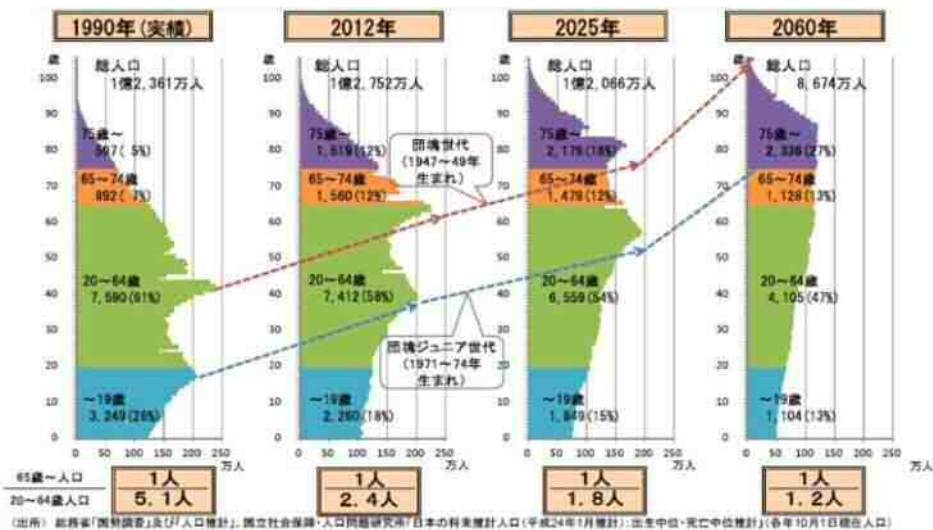
2

人口問題へのアプローチ

1. 人口問題は「確かな未来」の「確かな課題」
ただし、地域の人口は、地域間移動の分だけ不確か
2. 人口問題は「率」か「絶対数」か
率の視点・・・出生率、高齢化率、人口オーナス
数の視点・・・出生数、高齢者数、人口規模

地域からみると数の視点も重要に

日本の人口の大変化

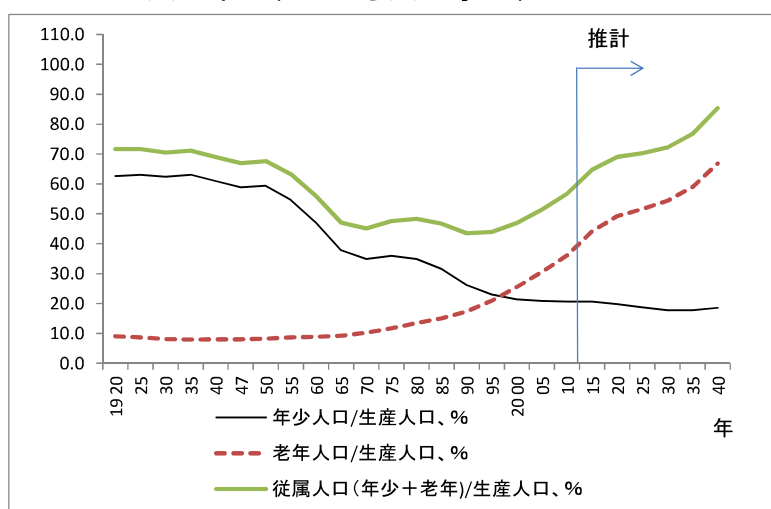


人口問題への対応

1. 人口の変化そのものを防ぐ
出生率回復には未婚率の引き下げが重要
出生数の回復はかなり難しい
2. 人口構造が変化しても困らないようにする
大都市圏の高齢者数の増大
地方部の超過疎化の進展



人口ボーナスから人口オーナスへ



国立社会保障・人口問題研究所「人口推計」(2012年1月)の中位推計
2005年以前は、同所Webサイト掲載の「人口統計資料集」2013年版

主要50カ国中の従属人口指数ランキング

2010年			2030年			2050年		
順位	国名	指数	順位	国名	指数	順位	国名	指数
1	ナイジェリア	86	1	ナイジェリア	77	1	日本	96
2	ノルウェー	83	2	日本	75	2	スペイン	90
3	パキスタン	66	3	ドイツ	72	3	イタリア	89
4	フィリピン	64	3	フィンランド	72	4	ポルトガル	87
5	イスラエル	60	5	フランス	68	5	韓国	85
6	エジプト	58	5	オランダ	68	6	ドイツ	83
7	日本	56	7	ベルギー	67	7	スイス	82
8	インド	55	7	スウェーデン	67	8	ギリシャ	82
8	メキシコ	55	9	イタリア	66	9	シンガポール	81
8	アルゼンチン	55	9	デンマーク	66	10	オーストリア	78
参考	世界全体	52		世界全体	53		世界全体	58
	先進国	48		先進国	63		先進国	73

国連「2010年版世界人口予測」より。経済規模の大きな50カ国を対象として順位付けしたもの。

世界一の人口オーナス国家

世界で最も、

- ① 女性・高齢者・外国人を活用し
- ② 労働の移動が柔軟で、質の向上を重視し
- ③ 年金の支給開始年齢が高く
- ④ 効率的な医療・介護サービスが提供され
- ⑤ シルバー民主主義を避けるような工夫を凝らし
- ⑥ 地域の疲弊を避ける

国を目指す必要がある。

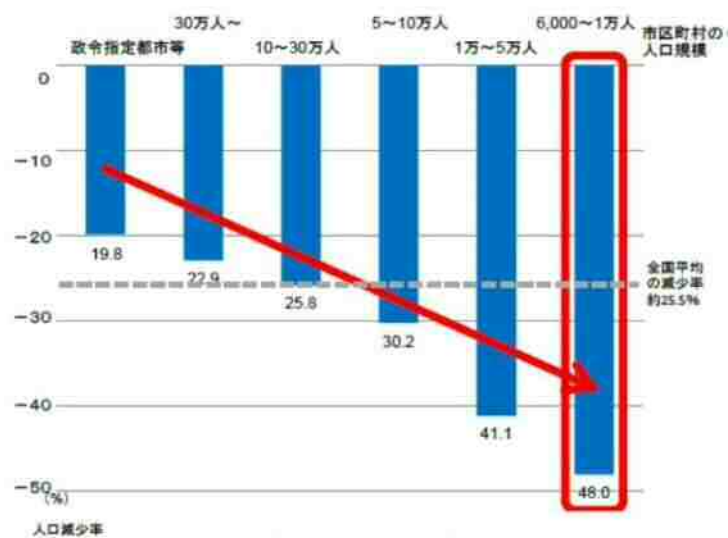




地域からみた人口変化

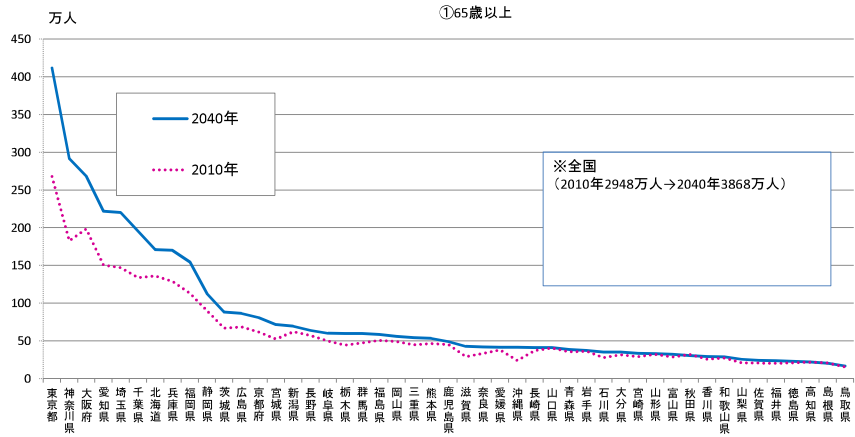
1. 人口減少・人口規模が小さい地域ほど人口減少が大きい
2. 高齢化・高齢化の進展と高齢者の増加は必ずしも比例しない
3. 人口オーナスが地域間格差を拡大させる

市区町村の人口規模別の人口減少率
(2005年から2050年の人口変化率)

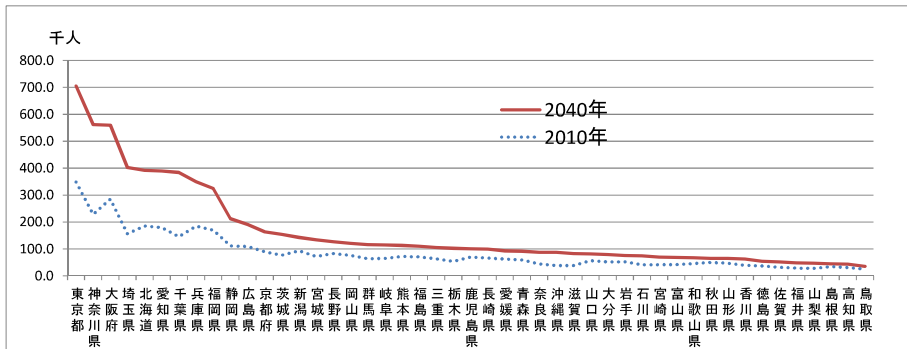


(出典)国土審議会長期展望委員会中間とりまとめ(平成23年2月)

地域別に見た高齢人口の増加数



介護需要(受給者数)の見通し



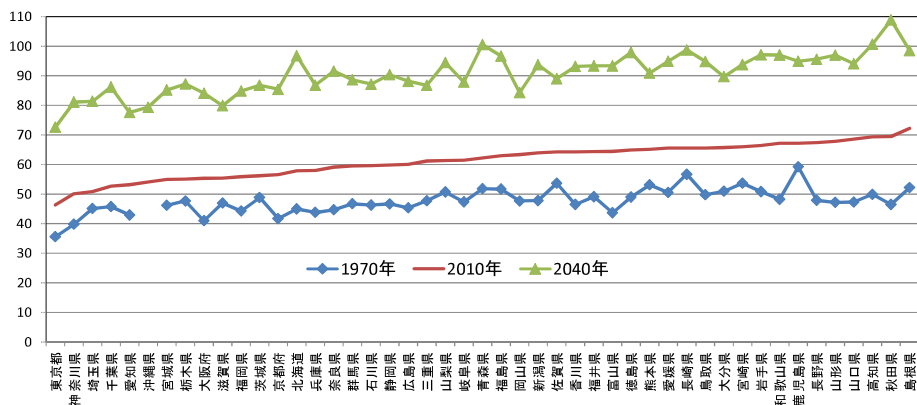
※小峰・松崎による推計。2010年は実績値を基に試算。

小峰隆夫・松崎いづみ「人口オーナス下の地域再生:要介護者推計を中心に」
(地域から考える成長戦略研究報告書「地域振興の主役は地域、成否のカギは人材」
日本経済研究センター、2013年4月)

http://www.jcer.or.jp/report/research_paper/detail4583.html

都道府県別に見た人口オーナス

従属人口指数【(年少人口+老年人口)/生産年齢人口】の都道府県別推移



国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(2013年3月)より
1970年は、同所Webサイト掲載の「人口統計資料集」2013年版より

人口変化率と合計特殊出生率の関係(2006年)

	人口変化率(%)	出生率	出生率全国平均以上○ 平均より下×
1 秋田県	▲1.02	1.34	○
2 青森県	▲0.98	1.31	×
3 高知県	▲0.86	1.33	○
4 長崎県	▲0.83	1.49	○
5 島根県	▲0.77	1.53	○
6 和歌山県	▲0.75	1.34	○
7 岩手県	▲0.74	1.39	○
8 山形県	▲0.71	1.45	○
9 山口県	▲0.62	1.40	○
10 鹿児島県	▲0.58	1.51	○

総務省「人口推計」、厚生労働省「人口動態統計」による